

周南市

令和4年12月23日

徳山下松港内の大島干潟が「令和4年度（2022年度）Jブルークレジット」に認証され、クレジット購入申込者の公募がはじまります。

問い合わせ先			提出チェック
担当課	担当者	電話	<input type="checkbox"/> 部数31部
水産課	山本、久行	0834-22-8366	<input type="checkbox"/> 原則概ね1週間前まで

2050年カーボンニュートラルに向け、ブルーカーボン生態系を活用した吸収源の拡大を図るため、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合（JBE）は、干潟・藻場の保全活動等の実施者により創出されたCO2吸収量をクレジットとして認証・発行し、CO2削減を図る企業・団体等にクレジット取引を行う「ブルーカーボン・オフセット制度」を試行されているところです。

昨年度に引き続き、周南市は、山口県漁業協同組合周南統括支店と大島干潟を育てる会との連名で申請・認証を受け、下記のとおりクレジット購入申込者の公募がはじまりますのでお知らせします。

記

- プロジェクト名称 : 「大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港」
- 申請者 : 山口県漁業協同組合周南統括支店
大島干潟を育てる会
周南市
- 認証・発行クレジット量 : CO2吸収量 32.4 [t-CO2]
- Jブルークレジット購入の公募について
 - 口数 : 周南市内に事業所を有する会社等法人は3口まで購入可能、それ以外の会社等法人は1口に限る ※1口あたり110,000円（消費税等10%込）
 - 公募期間 : 令和4年12月28日(水)～令和5年1月27日(金)
(申込多数等の場合、期間満了前に購入申込受付終了)
- 令和3年度（2021年度）Jブルークレジット購入申込者公募実績【参考】
 - 認証・発行クレジット量 : CO2吸収量 44.3 [t-CO2]
 - クレジット購入申込者 : 14企業・団体（市内7、市外7）
- その他 : 詳細については、次のJBEのHPをご参照ください。
 - ・トップページ : <https://www.blueeconomy.jp/>
 - ・該当ページ :
大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港
<https://www.blueeconomy.jp/archives/2022-jbc-register/#16>



J ブルークレジット認証通知書

2022年11月21日

申請者 関係各位

ジャパンブルーエコノミー技術研究組合

各位の令和4年9月30日付「プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット認証申請書」による申請（以下「本申請」といいます）に基づき、以下のとおりプロジェクト登録が行われ、その申請に係る吸収量が認証されましたので、ここに通知いたします。

プロジェクトの名称

大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクト in 徳山下松港

登録されたプロジェクト番号

202112JBCA00002

本申請に基づき認証された吸収量

32.4 [t-CO₂]

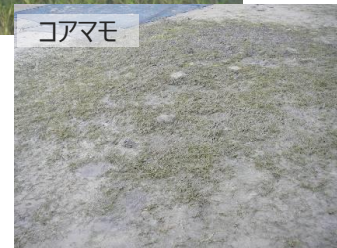
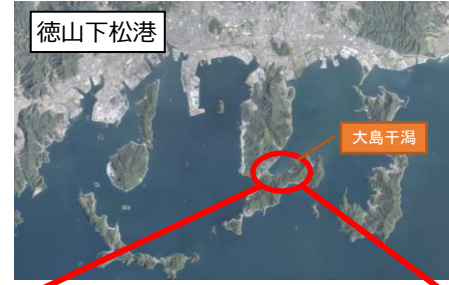
本申請に基づき発行される見込み^{*}であるJブルークレジットのシリアル番号

202211JBCT00002-00001 から 00324 まで

プロジェクト名：大島干潟から、つながる周南市ブルーカーボンプロジェクトin徳山下松港

プロジェクトの概要

- 大島干潟は、徳山下松港内の浚渫土砂を活用し造成された約29haの人工干潟（平成29年度完成）です。干潟の造成後より、アマモ場・コアマモ場が新たに形成されてきており、現在までに、多様な生態系が構築されてきています。
- 平成29年11月、大島地区住民と山口県漁業協同組合周南統括支店（以下、漁協）に所属する漁業者の参加・協働により貴重な地域資源である干潟を活用した地域の活性化を目指して「大島干潟を育てる会」（以下、育てる会）を設立し、大島干潟の保全活動を行っています。
- 育てる会は、アサリ・カキ資源の保全や増殖活動、同干潟内のアマモ場・コアマモ場の保全のほか、国・周南市が連携して毎年実施する環境学習活動の支援を行っています。漁協は、漁業権が設定されている干潟を含む海域での活動について、運営委員会に諮り許可するとともに、アマモの保全のため、干潟内をナマコ桁網漁の禁漁区に設定しています。周南市は、干潟の管理者として育てる会の活動を支援し、今年度からブルーカーボン推進事業を立ち上げ、大島干潟を拠点に周南市内の他地域にもブルーカーボン生態系の創出・拡大を実施します。
- これら3者が連携協働して実施している大島干潟での活動は、今後の継続的な活動により多様な生態系の維持及び拡大につながっていくことが期待されています。



プロジェクトの特徴・PRポイント

- 大島干潟での保全活動を通じて、ブルーカーボン生態系の維持・拡大が行われており、生物多様性の向上や地球温暖化の抑制にも貢献しています。
- 地域資源である大島干潟は、保全活動の拡大による地域の活性化や水産振興を目指しており、ブルーカーボン・オフセット制度を活用して、ここから多くの人々がつながることによって、さらなる保全活動の活性化及び持続化、またカーボンニュートラルへの貢献を推進していきます。



ブルーカーボン・オフセット制度の試行について

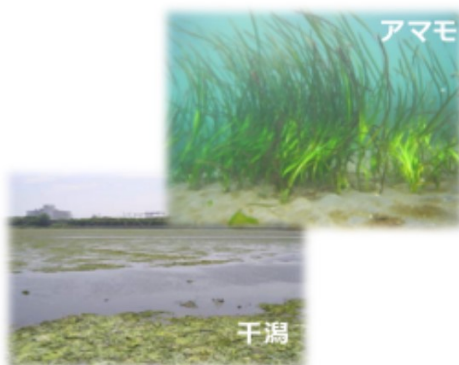
2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、ブルーカーボン生態系を活用した吸収源の拡大を図るため、藻場の保全活動等の実施者により創出されたCO₂吸収量をクレジットとして認証し、CO₂削減を図る企業・団体等とクレジット取引を行う「ブルーカーボン・オフセット制度」の構築を目指す。

ブルーカーボンとは

- 2009年の国連環境計画（UNEP）の報告書において、海洋生態系に取り込まれた炭素が「ブルーカーボン」と命名され、CO₂の吸収源の新しい選択肢として提示。

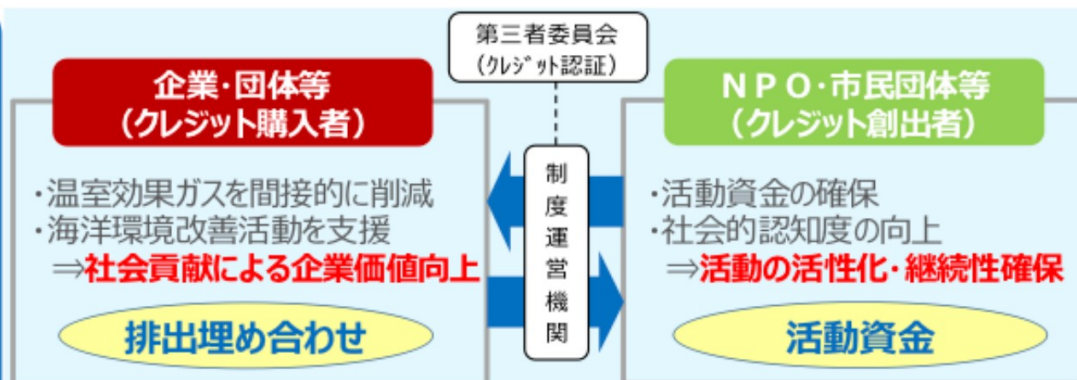


国連環境計画（UNEP）
報告書「ブルーカーボン」



アマモ

干潟



「ブルーカーボン・オフセット制度」のイメージ

本制度の構築に向けて、以下の手続の方法・手順等について課題の抽出等を図るため、実際の海域を対象とした制度の試行を行う。



- ✓ NPO・市民団体等によるクレジット認証申請
- ✓ 第三者委員会によるCO₂吸収量の評価・クレジット認証
- ✓ クレジット購入希望者の公募、クレジット取引（売買）等

制度の試行について

実施場所： 横浜港 金沢区 烏浜地先における藻場（アマモ場・アカモク場）

（※）平成21～24年度に国土交通省（関東地方整備局）が藻場造成事業を実施し、約16ヘクタールの藻場を創出。以降、NPO法人、漁業者等により藻場の保全活動が進められている。

実施内容： 上記の藻場を対象に、「ブルーカーボン・オフセット制度」に係る一連の手続を実施し、課題の抽出等を図る。

実施機関： **JBE** ジャパンブルーエコノミー技術研究組合
(令和2年7月14日付 国土交通大臣による設立認可)

